

FirstGlobal メッセージ

siesta

2014.6月号 vol.133

*シエスタとは、スペイン語で『昼寝』の意味です。
リラックスしながらお読み下さい。

発行元：〒540-0012

大阪府中央区谷町1-6-4

天満橋八千代ビル10階

(株)ファーストグローバルコンサルティング

代表取締役

戦略人事コンサルタント 品川典久

TEL 06-6910-3007 FAX 06-6910-3008

Email shinagawa@1gc.jp

URL <http://www.1gc.jp>

今月のトピックス

母のこと3

シャント術を受けた後、それまでよりは格段に意識レベルは上がりましたが、やはり左脳側にダメージを受けたので、右半身にマヒの形跡がみられました。三度の食事最初は左手で摂っていました。意識は戻った、しかし、このままでは退院しても誰かがずっと付き添うか、どこか施設に入り続けられないか、やはりマヒをなくせないものか？ほとんどの方がおそらくあきらめるであろう事態でしたが、まずは常識にとらわれずに方策を考えて情報収集しました。そこで知ったのが、「促通反復療法(川平法)」という、鹿児島大学病院霧島リハビリテーションセンターの川平和美教授が提唱したリハビリ技術です。NHKスペシャルでも取り上げられたのですが、実際脳卒中で倒れ、左半身にマヒが残ったアナウンサーの4年間でできなかった左手の動作が、10分の川平法によるリハビリを受けた後にやすやすとできたとのことでした。脳には「可塑性」といって、ある働きを行っている神経細胞のネットワークが壊れたとしても、別の働きをしていた神経細胞のネットワークが組み替わり、その働きをすること。関連本を購入し、付録のDVDを観て、徹底的に手法を研究しました。一度死んだ、手足を動かす際に使う筋肉や神経を治療者(家族)が上手に操作して本人が意図した通りの運動を実現させます。文字だけでは、なかなかご理解いただけないでしょうが、例えばマヒした母の指に私の指を添え、「伸ばして」と言ったあと、私が指を押して伸ばす、その動作を繰り返すものです。最初のうち母は「伸ばして」と言われて「伸ばす」意識を持つだけです。ずっと繰り返すと、「伸ばす」という動作が脳に植えつけられ、脳と神経・筋肉のつながりが徐々に太くなっていくものです。リハビリ病院では、リハビリ専門の先生がいらっしゃるので、なかなか人前ではできませんでしたが、病室で可能な限り繰り返しました。何度も言いますが、これだけが要因とはいえません。ただ、結果的に今は自分で料理も作り、マヒしていた右手で箸も使い、杖なしで歩けるようになりました。結果オーライです。

< next >

久々に酷い痛風発作が。ここ1ヵ月、まともに歩けません。色々調べましたが、諸説あり、おもしろいもんです。

痛風にはワインがいいとか、酒は飲んでしまえばどれも悪いとか。コーヒーはいいとか、悪いとか。何が正解なのでしょう？